

## 事項七 満蒙鉄道借款細目交渉ニ関スル件

(四平街鄭家屯鉄道借款)

（四平街鄭家屯岩村副領事ヨリ）

五三三 四月二十七日

在鄭家屯岩村副領事ヨリ  
本野外務大臣宛

### 四鄭鐵道建設狀況報告ノ件

附属書 右報告書

送第六八号

大正六年四月二十七日

（五月八日接受）

在鄭家屯

副領事 岩 村 成 允（印）

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

四鄭鐵道工事開始狀況ニ関スル件

本件ニ關スル別紙調査書正副二通及提出候条御查閱相成度  
此段申進候 敬具

写送附先

在支公使在奉天總領事在鐵嶺領事

（附属書）

四鄭鐵道工事開始狀況ニ関スル件

四鄭鐵路局ハ大正二年十月日支両国政府協定ノ結果日本ノ借款ヲ以テ敷設スヘキ所謂滿蒙五鉄道ノ一ナル四洮鐵道ノ一部ニシテ南滿洲鉄道四平街駅ヨリ起リ遼源県鄭家屯ニ達スルモノナリ本線ハ既ニ三四年前ニ於テ踏査ヲ為シ大正五年夏ヨリ四鄭鐵路局技師長藤根寿吉氏等之カ実測ニ從事シ十月ニ至リ全部完了シ十二月頃用地測量ヲ了リタルカ其縦延長ハ五十三哩六十三鎖ニシテ線路用地ノ幅員ハ狹キハ九十尺広キハ四百尺ニ達スト云フ

鐵道局及局員

四鄭鐵路局ハ四平街ニ新築シ仮事務所ハ八面城、三江口及鄭家屯ニ設置セルカ局長ハ我熊本高等工業学校出身ノ虞愚氏ニシテ技師長ハ滿鉄會社員タリシ藤根寿吉氏会計主任ハ正金銀行員タリシ戒田秀澄氏就任シタリ該局ハ總務、工務及会計ノ三科ニ分レ邦人使用人ハ工務科ニ於テハ技師長以下職員二十四名、傭人十名、會計科ニ於テハ會計課長以下職員三名会計三十七八名ニシテ殆ト全部滿鉄會社ニ在籍スルモノトス此外ニ支那人職員三十六七名同傭人三十余名アリ又右鐵道警備ノ為メ既ニ鉄路巡警三十六名採用シタルカ今後尚増員ノ上漸次全線ニ配置スルノ予定ナリト云フ

材料及機関車

本鉄道修築ニ要スル材料ノ中鉄材等ハ歐洲戰乱ノ結果頗ル騰貴シタルト四平街以西ニハ建築材料殆ント皆無ニシテ永久的建築物ニ要スル材料ハ總テ他地方ヨリノ輸送ヲ要スル等工費ノ予算ニ多大ノ不足ヲ感スルヲ以テ過般更ニ予算ニ削減ヲ加ヘ仮工事トシテ進行スルコトシ橋梁ノ如キモ先ツ木造トシ枕木ハ重ニ吉林（檜）及三江口附近ニ産スル白楊等ヲ使用シ軌道ハ漢陽鐵工廠製一「ヤード」八十五磅ノモノヲ用ヒ機関車ハ南滿鉄道會社ノ「タンクエンジン」ヲ讓リ受ケ貨車客車モ亦同會社ノモノヲ転用スル管ナリト云

工事請負状況

四平街鄭家屯間ノ全線ヲ四工区ニ分チ第一工区（自零哩至一哩）ハ菅原工務所有賀定吉、第二工区（自一哩至二哩）ハ信毅、第三工区（自三哩至三哩）ハ間組遠藤兵作、第四工区（至三哩三〇鎖）ハ大倉組横山

七 滿蒙鉄道借款細目交渉ニ關スル件 五三三

五一七

工事進行予定

工事ハ四月中旬ヨリ起工シ十二月迄ニ大体ノ工程ヲ終リ冬季中開業準備ヲ為シ明年四月中旬ヲ以テ仮營業開始ノ筈ナレトモ或ハ本年中ニ一部ノ仮營業ヲ開始スルコトアルヘシ而シテ本年雨季ニ於ケル水害其他意外ノ故障ナキニ於テハ建築列車ハ八面城迄ハ八月、傅家屯迄ハ九月、三江口迄ハ十月、鄭家屯迄ハ十二月ニ於テ運転ノ開始ヲ見ルニ至ルヘシ

ク又本線中橋梁架設地ハ三ヶ所ナルカ其内尤モ大ナル三江口ノ仮橋梁モ十月中ニ完成ノ筈ニシテ本年中ニ於テ建築列車ヘモ一般ノ便乗ヲ許スコトトナルヘシト云フ

## 停車場ノ位置

停車場設置地点ハ四平街、八面城、傅家屯、三江口、鄭家屯ノ五ヶ處ニシテ或ハ旧四平街ニモ停車場ヲ設置スルコトトナルヘク尚四平街停車場ハ満鉄停車「ホーム」ヲ拡張使用スルコトニ決定シ又鄭家屯停車場ノ位置ハ市ノ東部耕地中ニテ其全長一哩半アリ「プラットホーム」ハ無蓋ニシテ停車場事務所及宿舎ハ二階建平坪八十坪ノ家屋ヲ建築スト云フ

五三四 五月十二日 勝田大蔵大臣ヨリ

井上正金銀行頭取宛

## 四 鄭鐵道建設資金ヲ満鉄負担トシタル理由其

## 他二付問合ノ件

今般内閣總理大臣ヨリ左記ノ諸件ニ付照会有之候ニ就テハ右ニ閑スル御意見詳細承知致度至急御回報有之度

## 左記

一、四鄭鐵道借款契約附屬往復文書ニ依レハ将来敷設セラ

ルヘキ満蒙諸鉄道ノ建設資金ニ関シテハ支那政府ハ先ツ第一ニ横浜正金銀行ト協議スヘキ旨ノ約定ナルニ今般南滿洲鐵道株式会社總裁ヨリ提出ノ別紙写申請書ノ主旨ニ就テハ既ニ横浜正金銀行頭取ニ於テ同意セラレタル趣ナリ從テ当初横浜正金銀行ニ於テ契約セラレタル目的ヲ遂行セラレザル次第ナルカ如何ナル理由ニ依リ斯ク変更セラルル儀ナルヤ

二、四鄭鐵道ノ建設資金ニ約貳百万円ノ不足ヲ生シタル原因ハ彼ニ存スルカ將タ此ノ方ニ存スルカ

三、四鄭鐵道ノ借款金額ハ金五百万円ナルニ此ノ内ヨリ額面額ト手取額トノ差額其ノ他ヲ控除セシ為メ實際支那政府カ本鐵道建設ノ為メ使用シ得ル金額ハ三百五拾万円ニ過キサル由事實如何又借款ノ利廻ニ就テモ高率ノ嫌アルニ非ザルカ

四、四鄭鐵道ノ會計主任ノ応聘ニ際シ過當ノ俸給ヲ請求シ若ハ必要ノ程度ヲ超エタル高給者ヲ派遣シタルヤニ承知ス事實如何

五、若シ上述ノ事項ニシテ事實ナリトセハ之レ日支親善ノ精神ヲ阻害スルノ原因タルヘシトハ認メラレザリシヤ

又之等ニ関シ将来ニ対スル横浜正金銀行頭取ノ意見如何

註 別紙省略

五三五 五月十五日 中村満鉄總裁ヨリ

後藤鐵道院總裁宛

## 四 鄭鐵道建設資金措置其他ニ閑スル問合二件

## シ回答ノ件

東庶第四四二号

大正六年四月十八日附内申ニ対シ貴監第八二九号ヲ以テ御垂問相蒙リ候各項左ニ御答奉申上候

一、四鄭鐵道建設資金ニ不足ヲ相告ケ候事情ハ既ニ具申ノ通リ歐洲大戰ノ影響ヲ受ケ諸材料並ニ銀倅等ノ騰貴ニ因由致候得共元來右予算ハ未タ物価ノ甚シク騰貴セサル時ノ調査ニ相係リ候モノトテ其後支那交通部ト正金銀行トノ間ニ於テ商議日月ヲ相費シ候コトトテ弊社ハ終始直接事ニ当ルヲ得サリシ為メ遂ニ此ノ如キ計画ノ計数ノ差違ヲ生シ候儀ニ御座候

二、従事員ニ対シ本俸ノ四倍ヲ支給セシメト有之候得共右ハ弊社ニ於ケル本俸並ニ在勤手當、毎季賞与金等ヲ

七 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ閑スル件 五三五

経験ニモ有之且ツ専念工事ノ完全ニ竣成セシコトヲ祈

リ候ヨリ前項ノ如ク取計ヒ候得共素ヨリ支那側ノ感触如何ハ深ク考慮致候心得ニ御座候

四、将来弊社ヲシテ直接其ノ事ニ当ラシメラレ候場合ニ於テハ十分戒慎ヲ加ヘ御趣旨ノ存スル所ヲ服膺シ四鄭

鉄道ニ於ケル如キ事ヲ復ヒセサルコトニ留意可仕ハ勿

論ニ御座候

右四鄭鐵道ノ資金ニ不足ヲ告ケ候事情ハ前文叙述致候所ノ如クニ候モ更ニ深ク其裏面ヲ相窺ヒ候得ハ支那当局者ニ於テ弊社カ上海丙ヲ以テ買入レントセル軌条ヲ故サラニ天津両ヲ以テ買入候如キ又ハ用地購入ニ付キテモ支那側当局者ハ或ル事情ノ為メ高価ニ買上ケタル如キ実例不少畢竟支那通習ノ致ス所トハ申ナカラ之力為ニ資金ノ不足ヲシテ一層甚シキニ至ラシメタル事情モ有之候弊社ハ既ニ四鄭鐵道所用ノ諸材料ヲ運搬致候ニ当リ候テモ弊社用品ト同様ノ取扱致居候コトニテ彼等ニ於テモ弊社ノ是レ等ノ好意ニ対シテハ必ス満足致居ルコトト相信シ候右大略及御答申候也

大正六年五月十五日

南滿洲鐵道株式会社總裁男爵 中村雄次郎(印)

鉄道院總裁男爵 後藤 新平殿

五三六 五月十七日 在中国林公使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

四鄭鐵道建設資金不足ノ為正金ヨリ借款供与  
ノ報道ニ關シ其取締方及出所通報方稟請ノ件

第六二六号

五月十六日東京発共同通信ニテ四鄭鐵道ノ資金不足シ支那ヨリ更ニ借款ヲ申込メルカ正金銀行ハ其ノ不足額ヲ貸出スト共ニ鄭家屯ヨリ開魯迄ノ線路延長及開原朝陽(海竜ノ誤ナルヘシ)間ノ線路工費トシテ計參千萬円ヲ貸与スヘシト答ヘ支那モ承諾セリ唯宣戰問題取込中ニテ細目協定ハ未タ成ラス云々トノ報道伝ハリタル處此種電報ハ且下ノ時局ニ際シ徒ニ支那及外國側ノ注意ヲ喚起セシメ誤解ヲ來タス虞アルノミナラス愈々将来我方ヨリ交渉ヲ為ス場合不利ナル結果ヲ來タスヘント認メラルニ付此上引続キ報道セシメサル様十分御取締相成度ク尚為念右報道ノ出所御突止メ本使含迄ニ通報ヲ請フ

五三七 五月十八日 勝田大藏大臣(印)

寺内總理大臣宛

四鄭鐵道借款ニ關スル井上正金頭取ノ意見書

### 回付ノ件

#### 附屬書

五月十五日附井上正金頭取ヨリ勝田大藏大臣宛

#### 意見書

官房秘第二二二〇号

大正六年五月十八日

大藏大臣 勝 田 主 計(印)

内閣總理大臣伯爵 寺内 正毅殿

### 回答

今般四鄭鐵道借款ニ關シ横浜正金銀行頭取ノ意見ヲ徵スキ旨御照会ノ趣拝承右ノ趣同頭取へ申進候処別紙ノ通意見書送付有之候間写御回付申上候也

#### (附屬書)

五月十五日附井上正金銀行頭取ヨリ勝田大藏大臣宛意見書

本月十二日付往第二二〇九号ヲ以テ四鄭鐵道ニ關スル御下問ノ儀左ニ覆申仕候

一、大正五年一月四鄭鐵道公債發行価格ニ付支那政府ト折衝當時ノ清國政府五分利付鉄道公債(明治四十四年

發行)ノ市価ハ八拾老円見當又倫敦市場ノ同種公債市価ハ七拾七磅二分ノ一見當ニシテ戰爭前ニ比シテ非常

七 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ關スル件 五三七

卷之三

尚右ニ加フルニ時局ノ為ニ鉄道材料殊ニ軌条代価著シ  
ク騰貴致シ居リ低利資金ヲ得ルニアラサレハ満蒙五鉄  
道ハ一トシテ収支相償フ計算ヲ相立テ候事出来間敷ト  
被存候

四鄭鐵道ノ如キハ當初ノ予算通り五百万円ノ公債資金ヲ以テ建設ヲ終リ收支相償フモノニシテ材料騰貴ノ為メ貳百万円ノ不足ヲ生シタル以上ハ四鄭鐵道ノ収益ハ到底七百万円ノ公債利息ヲ支払フコト不可能ナルヲ以テ支那政府ハ毎年一般会計ヨリ利払ノ不足額ヲ補充セサルヲ得サルコトト相成リ申候

四鄭鐵道以外ノ鐵道線路八未タ

テ確タルコトハ申上兼候へ共開魯ノ延長線ハ勿論開海  
線ト雖モ日下ノ騰貴シタル材料ヲ以テ建設センニハ六  
分以上ノ資金ヲ以テシテハ遠キ将来ハ兎モ角モ当分ハ  
収支相償フ計算ヲ立て得サル儀ト被存候

以下ノ利廻リニテ公債ヲ發行スルコト困難ニシテ而シテ其ノ投下スル事業カ収支相償ハストスレハ資金ノ調

リ予定建設期間三ヶ年間ノ五百萬円ニ対スル利息金七  
拾五万円及取扱手数料毫千八百七拾五円ヲ差引參百武  
拾九万八千百武拾五円ハ建設費トシテ使用ス可キ高ニ  
御座候此ノ外契約第十四条ニヨリ本邦ニ於ケル元金ノ  
預リニ対シ年利參歩ヲ支払フ可キ契約ナルモ特ニ高利  
ヲ附スルコトヲ約束致シ此利息概算武拾五万五千円ハ  
併セテ建設費ニ支出セラルヘキ儀ニ御座候

目下ノ同鉄道工事進捗ノ程度ヨリ見ルトキハ或ハ予定期間三年以内ニ竣成スヘキ歟ト被考候左スレハ預金ニ対スル概算利息ヲ減少スルコトナルモ同鉄道竣成後収益ヲ生スレハ利払資金トシテ差引キタル金高ノ一部ハ必要ヲ見サルコトナル訳ニ御座候

一、四鄭鐵道契約ト正金銀行トノ関係ハ建設費支払ノ監督、収入金ノ保管ヲ為ス等四鄭鐵道公債所持者ニ対ス

ル責任ハ相応重大ナルモノニ有之候間会計主任ノ人選  
ニハ十分ノ考慮ヲ加ヘ支那語ヲ解シ且ソ満洲方面ノ事  
情ニ通スル本行々員戒田秀澄ヲ推薦致シタル次第御  
座候而シテ会計主任ノ俸給ハ技師長ノ俸給手当合計年

七 満蒙鉄道借款細目交渉ニ関スル件 五三七

道ハ一層ハ困難ノ事ハ決第ニ御四條  
然ルニ過日南満洲鉄道總裁ヨリ四鄭線不足金及其延長  
線ニ要スル資金調達ニ付内談有之候節前述ノ如キ卑見  
申述候処同總裁ハ御内示ニ預リ候同總裁ヨリ總理大臣  
宛伺書記載ノ如キ内話有之候間資金調達困難ノ為メ満  
蒙鉄道事業ノ遲延スルコトハ遺憾不尠次第ニ付幸ニ監  
督官厅ノ許可ヲ得ハ異存無之旨返答致置候次第ニ御座

一、四鄭鐵道建設ニ付キ式百万円ノ不足ヲ生シタルハ全  
ク時局ノ為メ材料ノ騰貴ト諸貨暴騰ノ二原因ニ基クモ  
ノニ御座候（予算比較表添付）

行価格ハ契約第拾參条第二項ニヨリ八拾六円五拾錢ト  
発表シタルモノノ結局ハ平均八拾貳円六拾八錢ニテ壳  
放チタル儀ニ御座候故ニ支那政府ハ四百五万円ヲ得引  
受団ハ八万四千參百四拾九円七拾五錢ヲ得此レ即チ証  
券製造費、廣告料及本行始メ引受銀行拾七行ノ手数料  
等ニ御座候

タルモノト被存候而シテ右ノ会計主任ノ収入ハ戒田秀澄カ本行員トシテ同地方ニ勤務スルモノトシテ得ル収入ヨリ少額ナルヲ以テ本行ハ戒田秀澄ニ対シテ年ニ貳千貳百円ヲ補助致居候

五、四鄭鉄道公債発行當時ノ市場ノ状況及会計主任応聘ノ事情等一項ヨリ四項ニ申述ヘ候通リニ御座候間奉仰

尚本行カ四鄭鐵道契約締結後該契約ヨリ生スル各事項ヲ  
挙ケテ南滿洲鐵道会社ニ依嘱スルコトハ同工事ヲ交  
満ニ進捗セシムル所以ト思考致シ別紙添付ノ覚書ヲ交  
換致シ爾來諸事南滿洲鐵道会社ニ於テ取扱キ吳レ居候  
次第ニ御座候別紙御覽ヲ奉願上候

以上  
大正六年五月十五日

橫濱正金銀行

頭取 井上準之助(印)

大藏大臣 勝田 主計殿

（一）（一）

6

## 四鄭鉄道直接工事費調新旧対照表

大正六年二月

交通部承認改訂予算

借款當時ノ予算

測量費	
用地費	
土工費	
軌道費	
橋梁溝橋費	
伏桶費	
停車場費	
柵垣境界標費	
車輛費	
機械場費	
諸建物費	
建築用汽車費	
運送費	
器具費	
電信電話費	
工事監督費	
總体費	
維持費	
意外費	
計	
(一)	
三、四二三、三六八	一〇九、七六〇
二、九一、一二六	一〇九、七六〇
一、一一四、六五〇	一〇九、七六〇
二、二〇四、四六二	一〇九、七六〇
六七八、九二九	一〇九、七六〇
一四五、七八三	一〇九、七六〇
八、五七八	一〇九、七六〇
無	一〇九、七六〇
三三六、八五五	一〇九、七六〇
二六、五〇〇	一〇九、七六〇
三八、七五七	一〇九、七六〇
三九一、一六八	一〇九、七六〇
四〇〇、三六〇	一〇九、七六〇
二三四、七一九	一〇九、七六〇
無	一〇九、七六〇
四、九四一、七八五	一〇九、七六〇

## 横浜正金銀行南満洲鉄道株式会社交換覚書

## 四鄭鉄道ニ関シ会談要領筆記

大正五年五月九日満洲鉄道会社ノ樓上ニ於テ正金銀行井上頭取ヨリ四鄭鉄道ニ関シ左記ノ事項ヲ開陳シ之ニ對シ同会社ノ列席諸氏ノ承諾ヲ得タリ

当日ノ列席者

## 満洲鉄道会社 国沢副総裁、佃、改野、樺山ノ各理事

四鄭鉄道借款契約ハ正金銀行カ当事者ニシテ其契約ニ依リテ支那政府ノ公債金五百万円ヲ募集シタリ而シテ此ノ公債元利ノ支払カ契約ニ規定セラル如ク実行セラルヤ否ヤニ関シテハ正金銀行ハ本公債ノ所有者ニ向テ徳義上非常ナル責任ヲ有スル所ニシテ随テ正金銀行トシテハ此鉄道カ予定ノ期間ニ予定ノ金額ヲ以テ建設セラレンコトヲ大ニ希望スル次第ナルト同時ニ其希望ヲ達成スル様ニ努力セサルヲ得サル地位ニ在リ乍併正金銀行トシテハ此希望ヲ達スル機関ヲ具備セス而シテ一方四鄭鉄道ト満洲鉄道トノ間柄ヲ考フルニ相互ノ利益上此ノ両鉄道ハ實ニ非常ナル密接ノ関係ヲ有セリ故ニ四鄭鉄道トシテハ満洲鉄道ノ充分ナル援助ヲ得ルニ非サレハ之ヲ予定ノ如ク完成スルコト能ハス満洲鉄

道トシテハ四鄭鉄道ト云フモノハ一種ノ支線ノ働く為ス次第ナルカ故ニ此鉄道ノ成否ハ満洲鉄道ニモ少カラサル利害關係ヲ及ホス訣ナリ右ノ事実ニ付テ考フルトキハ正金銀行トシテハ自ラ直接ニ尽ササルヲ得サル事項ノ外ハ借款契約ニ依リテ取得シタル大体ノ事柄ヲ挙テ満洲鉄道会社ニ譲渡スト同時ニ満洲鉄道会社ニ向テハ正金銀行自身カ此ノ契約ニ依リテ負担シテ居ル義務ノ各事項ヲモ同会社ニ引受ヲ願フコトヲ最モ時宜ニ適シタル処置ト考フルナリ之ヲ換言スレハ正金銀行ハ支那政府及公債所有者ニ對シテ義務ヲ負担スル募集金ノ收支、鉄道ノ収入及支出ノ監督等ノ事務ヲ掌理スル為メ会計主任ヲ正金銀行ヨリ推薦スル外ハ概シテ全部満洲鉄道会社ニ御委托スルコトヲ最モ適當ノ事柄ト思フ次第ナリ故ニ技師長ノ推薦、技術部ノ技師及会計主任以外ノ会計部員ノ選定材料購買代理人（借款契約第十九条ノ材料其他物件購買取扱者ヲ云フ）ノ選定及其事務ノ監督等ハ舉テ之ヲ満洲鉄道会社ニ御譲りスル精神ナリ其代リニ此ノ鉄道ヲ予定ノ時日ニ予定ノ金額ヲ以テ建設シ予定ノ収入ヲ図ルニ付出来得ル限り満洲鉄道会社ノ御尽力ヲ願ヒタシ即チ正金銀行カ四鄭鉄道支那公債所有者ニ對シテ負フ所ノ

五三八 七月十八日 中村満鉄總裁ヨリ

本野外務大臣宛

## 四鄭鉄道建設資金不足ニ付中國側ト至急交渉

## 方申請ノ件

附属書一 四月十八日附中村満鉄總裁ヨリ寺内内閣總理

大臣宛東庶第九二〇号写

四鄭鉄道建設資金不足補充等ニ関スル上申書

六月二十九日附後藤鉄道院總裁ヨリ中村満鉄

總裁宛監第九四八号写

満蒙鉄道資金供給ニ関スル申請ニ對シ大体承

認ノ指令通達ノ件

東庶第一〇三五号 (七月十九日接受)

四平街鄭家屯間鐵道敷設費ノ不足ヲ補フヘキ資金ノ調達及ヒ此ノ機會ヲ利用シ支那政府ヲシテ鄭家屯ヨリ開魯ニ至ル延長線ヲ承諾セシメ又開原海竜間ノ鐵道敷設資金ヲモ併セテ我ノ供給ニ待タシムル為メ本年四月十八日附ヲ以テ別紙甲号写ノ通り内閣總理大臣へ内申致ン去月二十九日附ヲ以テ別紙乙号写ノ通り大体御允納ノ御示命相蒙リ居候処就中四鄭間ノ工事ハ進捗予期以上ニ有之隨テ不足資金ノ補充ヲ急ト致候ノミナラス極寒ノ地、工事季節ノ關係モ尠カラス候事故至急駐支林公使ヘ御訓令ノ上同公使ニ於テ前記件ニ一併シテ支那政府へ御交渉相成候様致度懇願ニ不勝候為念別紙相添此段及内申候也

大正六年七月十八日

南滿洲鐵道株式会社

總裁男爵 中村 雄次郎(印)

(附屬書一)

甲号写

四月十八日附中村滿鐵總裁ヨリ寺内内閣總理大臣免申請書

外務大臣子爵 本野 一郎殿

四平街鄭家屯間ハ現ニ起工初程ニ有之候處歐洲大戰ノ影響ヲ相受ケ所要材料其他物価騰貴ノ結果トシテ大約弐百万円ノ資金不足ヲ相告ケントスル場合ニ立到リ支那政府ニ於テハ到底自弁供給ノ余力無之去リ迪横浜正金銀行ニ於テモ復ヒ不足資金ヲ市場ニ追加招募候コトモ相成間敷加之工事ハ最急速度ヲ以テ進行セシメサルヘカラサル次第ニ候得ハ幸ニ政府ノ御聽納ヲ辱クシ且ツ支那政府ノ同意ヲ得候上ハ大体別紙附添ノ米支鐵道借款契約条件要領ニ相基キ左記ノ趣旨ニ由リ四鄭鐵道ノ急需ニ応スルト同時ニ進シテ開原海竜、鄭家屯開魯間ニ要スル資金ヲモ併セテ當会社ニ於テ引受處弁致度ト存候

一、将来滿蒙鐵道ニ要スル資金ハ原則トシテ全部當会社

ニ於テ引受處弁致度事

一、滿蒙鐵道ノ資金ハ其必要ニ応シ支那政府ヲシテ鐵道公債ヲ發行セシメ當会社ハ之ヲ引受クル為メ特ニ社債ヲ起シ以テ其所要ヲ充シ度事

一、支那政府ニ於テ發行スル公債ト當会社ノ社債トハ償還期限其他ニ於テ同一ナルヲ得サルヘキモ初回ニ於ケル社債募集ノ時ハ當会社ハ單ニ好意的仲介者トシテ其衝ニ相当リ候ニ止リ其間何等差益若クハ差損ヲ被ラサル様兩者ノ利率、手取、報酬等ヲ斟酌取極ムヘク第二回以後ノ社債借換ノ時ハ必然多少ノ差益若クハ差損ヲ免レサルヘシト雖モ是レ等ノ「リスク」ハ當会社ニ於テ負担スル事

右兩案ニ對シ予メ政府ノ御意向伺ヒ置度何分ノ御指命奉仰候也

大正六年四月十八日

南滿洲鐵道株式会社

總裁男爵 中村 雄次郎

(別紙)

大正五年十一月十三日記録

米支鐵道借款契約條件要領

一、鐵道總延長里程ハ一千五百哩ナルヘキコト  
(後チ現任交通總長許世英ハ米國代表者ト協議ノ上一千一百哩ニ改メタリ)

二、右ニ要スル資金金額ハ追テ協定スルコト  
右案ニシテ万ノ政府ノ御認許ヲ得ザルカ又支那政府ニ於テ同意セザルトキハ更ニ左案ニ依リ前頭ノ目的ヲ達成致度存候

一、四鄭線不足資金弐百万円及ヒ開原海竜並ニ鄭家屯開魯線ニ要スル資金ヲ併セテ支那政府ノ借款若クハ公債

ト致サセ正金銀行ノ取扱ヲ以テ當会社ハ借入金其他ノ財源ニ依リ相當ノ条件ヲ定メ其一部若クハ全部ヲ引受

七 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ關スル件 五三八

四鄭鐵道資金不足ノ補充竝ニ開原海竜、鄭家屯開魯間鐵道資金ニ關スル件申請

七 満蒙鉄道借款細目交渉ニ関スル件 五三八

ヲ貰受クルコト

定シ

(後チ現任交通総長許世英ハ米国代表者ト協議ノ上百分  
ノ二十ト改メタリ)

六、会計監、技師長及運輸部長ハ米人ヲ任用スルコト

(最近米国発公電ニ拠レハ前ニ Northern Pacific Rail-

way 技師タリン Seorge, A. Kyle ナルモノ右技師長ト

シテ本年内(即チ昨年ナリ)ニ着支スル筈ナリト云フ)

七、線路ハ測量ノ結果変更スルコトヲ得ルコト

八、Siems Carey Railways & Canal Co. (裕中公司)ハ

線路測量費トシテ前貸金米貨五十万弗ヲ提供シ今尚米国

銀行ニ保管セラル

(此後ノ工事費ハ都テ隨時公債ヲ發行シテ之ニ充ツヘク

決シテ他ノ前貸金及予約借款ノ數目ナシト云フ)

九、本年五月十七日(即チ昨五年ナリ)前交通総長曹汝霖

ト裕中公司トノ間ニ調印シタル契約条項ニ於テ本年九

月十九日(即チ昨五年ナリ)現任交通總長許世英カ附件

即チ附属条項トシテ改正追加シタルモノハ前記第一項ノ

哩数短縮及ヒ第五項ノ純益配当率改正ノ外ニ

(1)取極メ不備ナリシ公債発行及前貸ニ関スル手続ヲ詳

十、最初聞込ミタル一千五百哩ノ線路内訳ハ左ノ如シ

一、衡州(湖南)南寧(廣西)線 四百六十哩

二、豐鎮(山西)寧夏(甘肅)線 五百十哩

三、寧夏(甘肅)蘭州(甘肅)線 二百三十哩

四、杭州(浙江)溫州(浙江)線 二百四十哩

五、瓊州(廣東)樂会(廣東)線 六十哩

十一、線路哩数ヲ一千一百哩ト改正セシ内容ハ未タ聞知

スルコトヲ得サルモ寧夏線ニ對スル露國ノ抗議アリ

テ裕中公司ニ於テモ同線ヲ固執セサルノ模様アリ

南滿洲鐵道株式会社總裁男爵 中村雄次郎殿

本年四月十八日附東庶第九二〇号ヲ以テ滿蒙鐵道資金供給

ニ關シ申請ノ件ハ左ノ各項ヲ遵守スルモノトシテ別紙ノ通

指令相成候条件知相成度及内達候

一、諸外國ノ對支借款ノ例ヲ斟酌シ過當ノ要求ヲ為ササ

ルコト

二、附帶条件トシテ任用セシムヘキ技師長会計主任其他

ノ職員ノ報酬人員等ヲ過當ナラシメサルコト

三、敷設費予算ノ調査モ当初ヨリ可及的精確ニシテ違算

ナキヲ期スルコト

四、線路ノ選定及敷設順序ニ付テモ予メ充分ノ調査ヲ遂

クルコト

(別 紙)

六月二十九日附後藤鐵道院總裁ヨリ中村滿鐵總裁宛監第九四

八号  
満蒙鐵道資金供給ニ關スル申請ニ對シ大体承認ノ指令通達ノ件

監第九四八号

大正六年六月二十九日

鐵道院總裁男爵 後 藤 新 平(印)

(関東都督府経由)

七 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ關スル件 五三八

大正六年四月十八日附東庶第九二〇号申請滿蒙鐵道資金供給ニ關スル件大体ニ於テ之ヲ承認ス但シ其ノ方法条件等確

定シタルトキハ実施前更ニ稟伺スヘシ

大正六年六月二十九日

内閣總理大臣伯爵 寺内 正毅(印)

五三九 七月一十日 本野外務大臣ヨリ  
在中國林公使宛

**満蒙鉄道建設資金特ニ四鄭鉄道資金補充ニ關  
シ閣議決定ノ上満鉄ニ指令シタル旨通報ノ件**

政機密送第一三四号

満蒙鉄道敷設資金ノ件ニ関シニ南満洲鉄道会社ヨリ別紙丙甲号ノ通政府ニ上申アリタル処今般別紙乙号ノ通閣議案ノ決定ヲ見タルヲ以テ内閣總理大臣ヨリ同鉄道会社總裁ニ対シ右上申ノ件大体ニ於テ之ヲ承認ス但シ其ノ方法条件等確定シタルトキハ実施前更ニ稟伺スヘキ旨六月二十九日付ヲ以テ指令シ且鉄道院總裁ヨリ同鉄道会社總裁ニ対シ本件上申ハ(一)諸外国ノ對支借款ノ例ヲ斟酌シ過當ノ要求ヲ為ササルコト。(二)附帶条件トシテ任用セシムヘキ技師長、会計主任其ノ他ノ職員ノ報酬人員等ヲ過當ナラシメサルコト。(三)敷設費予算ノ調査モ当初ヨリ可及的精確ニシテ違算ナキヲ期スルコト。(四)線路ノ選定及敷設順序ニ付テモ予メ充分調

甲号 総理大臣宛大正六年四月十八日中村満鉄總裁上申書写

別紙

查ヲ遂クルコトノ各項ヲ遵守スルモノトシテ右ノ通指令セラレタル次第ナル旨内達相成候本件鉄道中四鄭鉄道資金不足補充ノ件ハ至急融通ノ必要モアリ或ハ自然之丈ヲ引離シテ第一ニ着手セサルヲ得サルヤモ難測ト存候 尚本件ニ関シテハ追テ何分ノ義申進スル運ト可相成候得共右ノ次第不取敢御承知置相成度此段申進候也

追テ今回資金融通方決定ヲ見タル鄭家屯開魯間鉄道及開原海竜間鉄道ニ関シテハ本年二月中満鉄總裁ヨリ別紙丙号写ノ通内申ノ次第アリタル處右内申書中鄭家屯開魯線ヲ以テ所謂満蒙五鉄道借款大綱ノ決定セル線路ニ該当スルモノト見做シ得ルカ如ク立論セル点ハ到底首肯難致認メラレ且其他ニモ研究ヲ要スル点有之折角詮議中ナリんカ次テ四月ニ至リ別紙甲号写ノ通満鉄總裁ヨリ上申書ノ提出ヲ見ルニ至リタル次第ニ有之候本件成行御含迄申添候尚別紙乙号写中ニ記載アル大藏省及鉄道院ト南満洲鉄道会社總裁及正金銀行頭取トノ各往復ハ別紙丁号、戊号己号及庚号各写ノ通ニ有之候間是又為念右添付致置候

乙号 閣議決定写  
丙号 大正六年二月二十八日満鉄總裁内申書写(外務大臣宛)  
丁号 大正六年五月十二日付正金銀行頭取宛大藏省書面宛  
戊号 大正六年五月十四日付南満洲鐵道總裁宛正金銀行頭取書面写  
己号 大正六年五月十五日付大藏大臣宛正金銀行頭取書面写  
庚号 大正六年五月十五日付鉄道院總裁宛滿鉄總裁書面写  
註 右別紙ノ中前掲ノ甲乙丁庚ノ各号及丙戊己ノ各号ヲ省略ス

五四〇 八月十六日

本野外務大臣ヨリ  
在中國林公使宛

**四鄭鉄道問題ニ關スル交渉ノ当事者ヲ満鉄ト  
致度旨中國側ニ申入方訓令ノ件**  
政機密送第一五七号

満蒙鉄道ニ關スル件

本件ニ關シ七月二十日付政機密送第一三四号ヲ以テ不取敢申進置候処政府ニ於テモ此ノ際満鉄上申ノ通り至急先シ四鄭鉄道ノ完成開原海竜鉄道及鄭家屯開魯鉄道ノ敷設ヲ図ルコト致度希望ニテ本件交渉ハ南満洲鉄道会社ニ於テ直接其ノ衝ニ当ルヘク近ク同社ヨリ代表者ヲ貴地ニ派遣スル筈ナルカ予メ貴官ヨリ曹交通総長ニ対シ客年中是等三鉄道ニ關シ小田切正金銀行取締役ト虞四鄭鉄道局長トノ間ニ会談

七 満蒙鉄道借款細目交渉ニ關スル件 五四〇

張シ到底満鉄当事者案ニ同意セシムル見込ナキ場合ニハ已ムヲ得サルニ付前記政機密送第一三四号附属甲号満鉄總裁上申書所載第二案ノ通り本件借款ハ正金銀行ノ取扱ヲ以テ満鉄ニ於テ其ノ資金ヲ引受クルコトト可致筈ニ付右貴官限リ御含置相成度又此等鉄道交渉ニ関スル根拠トシテハ四鄭鐵道ハ統借ノ名義ニヨリ又開原海竜鐵道ハ所謂満蒙鐵道借款大綱及四鄭鐵道借款契約附屬往復文書(甲)ニ拠ルヲ得ル次第ナルカ鄭家屯開魯間鐵道ハ右借款大綱ニハ規定ナキ新線路ニ属スルヲ以テ前記二鉄道トハ多少事情ヲ異ニスルモ大体左記ノ事項等ヲ適宜敷衍説明シテ支那側ヲ納得セシムルコトト被致度候尚又満鉄側ニ於テハ前記満鉄總裁上申書ノ通リ本件借款ニ関シテハ Siems Carey 関係米支新鐵道借款契約条項ヲ標準トシタキ希望ナル処四鄭鐵道ハ現借款ノ不足ヲ補充スル統借ニ外ナラサル次第ニテ金利其他事情ノ変化ニ伴フ当然ノ改正ハ兎モ角其ノ他ハ四鄭鐵道借款契約ヲ基礎トスヘキコト当然ノ事理ニ属シ又開原海竜鐵道ハ滿蒙鐵道借款大綱及四鄭鐵道借款契約附屬往復文書(甲)ニヨリ浦信鐵道借款契約ヲ標準トスルコトナリ居リ且右附屬往復文書中正金銀行ヨリ支那側ニ送致セル分ニハ開原

海竜線等ハ四鄭鐵道借款契約ノ条項ヲ基礎トシテ日支間ニ協定シタキ旨記載シアル關係モアレハ旁々同鐵道ハ結局右借款大綱及附屬往復文書ノ趣旨ニ拠ルノ外ナカルヘシト思料セラルルノミナラス元來米支新鐵道借款ハ米支間特異ノ事情ニ基ク處尠カラスト認メラレ且又同借款ハ御承知ノ通り未タ線路モ十分確定セサル有様ニ付前記通りノ行懸リアル四鄭鐵道及開原海竜鐵道ハ勿論全ク新線路タル鄭家屯開魯線ト雖此ノ際我方ニ於テ米支新鐵道借款ノ例ニ倣ハシコト到底困難ナルヤニ思考セラル從テ満鉄側ニ対シテハ満鉄側ニ於テ資本家ノ立場ヨリ米支新鐵道借款ヲ標準トシテ一応支那側ニ交渉ヲ試ムル分ハ兎モ角結局ノ処其ノ目的ヲ達スルハ到底覚束ナキコト予メ覺悟シ置クヲ要スル旨篤ト申聞ケ置候間右様御含置相成度此段申進候也

追テ我方ニ於テ本件各鐵道急設ノ必要ヲ認メ居レルハ前記ノ通リナルカ滿蒙鐵道問題ノ成行ヲ熟知シ且我方トハ密接ノ關係ヲ有スル曹汝霖目下幸ヒ交通部ニ長タルニ付其ノ在任ノ期ヲ逸セ速ニ交渉ヲ進ムルコト極メテ好都合ト認メ居レル次第ニ付右御含迄申添候也

## 左記

経済上有望ノモノナルコト

(イ) 本鐵道ノ成立ハ東部内蒙古地方ニ對スル文化ノ普及ニ資スル所極メテ大ナルヘク從テ同方面ニ對スル支那施政上裨益スルコト尠少ナラサルヘキコト

(ウ) 今日我国ノ金融狀態頗ル良好ナルヲ以テ支那ノ為比較的有利ナル条件ニテ借款ヲ取結ヒ得ヘク從テ将来同鐵道ノ経常費ヲ輕減シ得ヘキコト

五四一 十月三日

在中国公使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

海竜開原外二線及吉会線敷設ニ付中國側ト交渉開始ニ關シ請訓ノ件

第一三九三号

先般御訓令ニ接シタル海竜開原外二線ニ關シ交通總長ニ交渉ノ件ハ吉長鐵道商議進行ノ關係上暫ク差控置キタル如吉長問題ハ既ニ委員間ニ協定ヲ了シ近々調印ノ運トナリタルニ付此際前頭三線ニ對シ交渉ヲ開始スル積ナルカ裏ニ往電

第一〇七一号ヲ以テ稟申セル吉会鐵道モ併セテ提議スルコトト致度尚右ト開聯シ結局吉長鐵道代辦經營權放棄ノ意思發表ノ件モ併セテ御詮議ノ上何分ノ義御電訓ヲ請フ

(サ) 满鉄調査ニヨリハ本鐵道沿線ハ土地極メテ豐饒ニシテ又物資ニ富ミ支那人ノ移住者激増シツツアリ從テ鐵道自身シク其ノ利益ニ浴スルコト

五四二 十月二十九日 中村正金銀行副總支配人ヨリ

四鄭鐵道ノ工事中止ニ關シ在北京正金副總支

## 配人ヨリ報告ノ件

附屬書一 十月二十八日在北京武内正金副總支配人ヨリ

來電写

四鄭鐵道工事中止ニ關シ交通次長ト会談ノ件

十月二十二日付在北京武内副總支配人ヨリ井

上頭取宛頭第6／二六五号写

四鄭鐵道工事一部中止ノ交通部令ニ關スル件

十月二十三日在北京武内横浜正金銀行副總支

配人ヨリ井上頭取宛頭第6／二六六号写

四鄭鐵道三江口鄭家屯間工事中止等ニ關スル

交通部令写送付ノ件

附記 右工事中止等ニ關スル十月十七日附交通部令和

訳文

文

第一〇七号

大正六年十月二十九日

横浜正金銀行

副總支配人 中村錠太郎(印)

拝啓左記事項ニ關シ在北京弊行武内副總支配人ヨリ別紙写

件

政務局長宛

頭取 井上準之助殿

武内金平

四鄭鐵道工事一部中止ノ交通部令ニ關スル件

本件ニ關シ昨二十一日鐵嶺出張所ヨリ別紙写第一号ノ通り

入電有之又滯京中ノ竜居滿鉄理事ニハ同本社ヨリ別紙第二

号写ノ通リノ電報到着シタル由通知ニ接シタルヲ以テ公使

館ト打合ノ上本日陸夢熊ヲ交通部ニ訪ネ果シテ斯ル部令ヲ

發セラレタリヤ否ヤ若シ果シテ然リトセハ四鄭鐵道借款契

約ノ趣旨ニモ抵触スル事ト信スルニ付是非右部令ヲ撤回ス

ル様被取計度万一一之ヲ公然ノ沙汰トシテ交渉スル必要ノ生

スルカ如キコトハ當方ノ好マサル処ナレハ穩便円満ニ之ヲ

解決致度旨懇談致候處同人ハ何レ取調ノ上何分ノ挨拶ヲナ

スヘシトノ事ニテ相別レ申候ニ付別紙電報写相添此段不取

敢及御報告置候

(別紙)(一)(二)写

敬具

(一)

第一号(頭第6／二六五号附屬)

鐵嶺出張所來電 大正六年十月二十一日午後五時着

七 満蒙鐵道借款細目交渉ニ關スル件 五四二

ノ通り電報及書信到達候間茲ニ供貴覽候 敬具

一、四鄭鐵道工事中止ノ件ニ關スル武内副總支配人來電

一、四鄭鐵道工事一部中止ノ交通部令ニ關スル件(十月

二十二日頭第二六五号)

一、四鄭鐵道三江口鄭家屯間工事中止等ニ關スル交通部

令写送附ノ件(十月二十三日頭第二六六号)

二十二日頭第二六五号)

四鄭鐵道工事中止ノ件(十月二十三日頭第二六六号)

四鄭鐵道工事中止ノ件(十月二十八日発同二十九日着)

四鄭鐵道工事中止ニ關スル交通部部令ニ付質問旁交通次長

ト会談ノ結果先方ヨリ不足額ニ対スル借款早速協議致度且

右ハ銀借款希望ノ旨非公式ニ申入レ有之本月二十二日付ノ

当方書信参照可相成

(附屬書二)

写

頭第6／二六五号

大正六年拾月二十二日

本店

件

交通部ニ於テハ三江口迄ニテ工事中止追加借款見合セニ決

定ノ模様、今更工事中止スルモ資金不足ハ同様ナルコトヲ

具申ノ筈、

四鄭鐵道工事一部中止ノ交通部令ニ關スル件

(二)

第二号(頭第6／二六五号附屬)

第一三号電報訳文大正六年十月二十日午後五時半北京着

竜居理事宛

国沢理事長發

四鄭線藤根技師長ヨリ左ノ如キ電アリ、右ハ營業上多大ノ

影響アルノミナラス廉価ニ買入タル軌条ヲ売却セハ他日高

価ナルモノヲ買入ル必要アルベク却テ予算ノ不足額ヲ大

ナラシムルモノアルヘキニ付林公使トモ御協議ノ上積極的

ノ方針ニ出テ工事ノ完成ヲ急ク様交通總長ニ御話願フ

「交通部ハ部令ヲ發シ當鐵路建設費不足額追加ニ対スル

便法トシテ三江口鄭家屯間十五哩ノ工事ヲ中止シ軌条枕

木ヲ他ノ鐵道ニ転売シ以テ資金追加ヲ免カルル様計画ヲ

変更セヨト申来レリ軌条枕木ノ転売ハ別トシテ此区間ノ

工事ヲ中止スルモ此際僅々十何万円ヲ省キ得ルノミ營業

上ノ不利甚シキヲ思ヘハ愚論取ルニ足ラス虧局長ハ二十

七 満蒙鉄道借款細目交渉ニ関スル件 五四二

五日北京ヨリ帰ル等

委細アトヨリ申上ク」

(附属書三)

写

頭第6／二六六号

大正六年拾月二十三日

本店

頭取 井上準之助殿

武 内 金 平

四鄭鐵道三江口鄭家屯間工事中止等ニ閑スル

交通部令写送付ノ件

右部令ニ就キ非公式ニ交通部ノ再考ヲ促シタル事ハ昨二十二日付頭第6／二六五号ニテ及御報告置候通リニ有之候處本日竜居滿鉄理事ヨリ右部令写ノ送付ヲ受ケ候ニ付転写ノ上茲許同封及御送付候

註 右交通部令原文ヲ省略シ當時外務省ニ於テ作成シタル仮訳文ヲ左ニ附記ス

(附 記) 十月十七日附交通部令第四參式〇号和訳文

四鄭鐵道工程局長虞愚ニ命令ス

敬具  
右交通部令原文ヲ省略シ當時外務省ニ於テ作成シタル仮訳文ヲ左ニ附記ス

（附 記） 十月十七日附交通部令第四參式〇号和訳文

四鄭鐵道工程局長虞愚ニ命令ス

上申書ノ主旨ハ予算不足金及水害善後経費等ノ金額合計洋銀一百七、八拾萬元ヲ正金銀行又ハ他ノ銀行ヨリ其予算不足金及水害善後経費等ノ金額合計洋銀港百七、八拾萬元ヲ正金銀行又ハ他ノ銀行ヨリ短期借入ヲナシ臨時ノ工事ニ誤ナカラシコトヲ期シニ無形ノ損失ヲ減少ゼント欲スルハ固ヨリ正当ノ措置ニ属セリ但此金融緊迫金価低落ノ際ニ当リ借款スルハ損失殊ニ甚タシク且ツ恐クハ実行困難ナラン按スルニ該鐵道全線ノ距離ハ約五十二英里ニシテ三江口ヨリ鄭家屯ニ至ル一工区ノ距離ハ約十三英里半ナレハ全線ノ四分ノ一ヲ占メ此次ノ水害善後追加経費二十余万元ナルモノハ該工区カ実ニ三分ノ二ヲ占メリ若シ此際先ツ三江口マテノ汽車開通ヲ行ヒ三江口ヨリ鄭家屯ニ至ル一工区ノ工事ヲ暫時停止シ其剩余セル工費ヲ以テ三江口ヨリ四平街ニ至ル一工区ノ用ニ供セハ自ラ充分ノ補救トナリ尚ホ其鐵軌枕木ヲ都テ他ノ鐵道ニ転売シテ流用スルコトヲ得ヘシ即チ營業ノ為メニ計レハ則チ三江口鄭家屯間ハ遼河ノ貫通スルアリ鄭家屯ヨリ東南一帯ニ運往スル貨物ハ三江口

ニ於テ汽車ニ積載セサルヲ得ス一昨年ノ収入里程ヲ以テ之ヲ計ルニ損失ハ亦タ四分ノ一ニ過キス橋梁予算ニ付テハ該

鐵道ノ營業ハ開始シタルノミナレハ貨物尙ホ多カラス仮橋ハ正式ノ橋梁ノ如ク堅牢ナラサルモ列車ノ速度急ナラサレハ自ラ危険發生ノ虞ナシ本部技師翁人鳳ノ調査報告ニ拠ル

ニ該鐵道ノ大小木橋ハ尚五六年間保存シ得ヘク正式橋梁ニ改築スルコトハ暫ク延期スルモ差支ナシ仮令ヘ河水氾濫シ

時借款シテ該鐵道ノ修理工費ハ尙ホ巨額ヲ要セス之ヲ現テ破損スル所アルモ其修復工費ハ尙ホ巨額ヲ要セス之ヲ現

該鐵道ニ需用スル車輛ノ借用ハ固ヨリ之ヲ購入スルノ利ナルニ如カス但シ南滿ノ車輛型式ヲ購入スルコトハ甚タ適當

ナラス短期借用スルコト却テ有益ナリ且ツ經濟上ニ於テモ利益トスノ如クセハ目前ノ財力ヲ緩和スルト同時ニ運輸ノ収入ヲ博クスヘシ又該鐵道ノ工事書ノ価格ハ普通ヨリ高価ナレハ速ニ其取扱法ヲ改良シ勉テ節約ヲナシ以テ資金ノ輕減ヲ期スヘシ或ハ工事ノ遅延ニテロ実ヲ貽スノ慮アラン

カ然レトモ合同第三条ニハ實際起工ノ日ヨリ起算シテ約二箇年間ニ竣工スヘシト記載セリ今漸ク一箇年ナレハ尚一箇年ノ余裕期間アリ第二十二条ニ又銀行側ハ金融關係ニ因テ

五三六

上申書ノ主旨ハ予算不足金及水害善後経費等ノ金額合計洋銀一百七、八拾萬元ヲ正金銀行又ハ他ノ銀行ヨリ

短期借入ヲナサント欲スルニ付詮議訓示ヲ乞フノ件

第八八号及八九号ニ通ノ上申書並ニ追加予算書ハ皆閱了セリ

ノ工事ニ誤ナカラシコトヲ期シニ無形ノ損失ヲ減少ゼント欲スルハ固ヨリ正当ノ措置ニ属セリ但此金融緊迫金価低落ノ際ニ当リ借款スルハ損失殊ニ甚タシク且ツ恐クハ実行困難ナラン按スルニ該鐵道全線ノ距離ハ約五十二英里ニシテ三江口ヨリ鄭家屯ニ至ル一工区ノ距離ハ約十三英里半ナレハ全線ノ四分ノ一ヲ占メ此次ノ水害善後追加経費二十余万元ナルモノハ該工区カ実ニ三分ノ二ヲ占メリ若シ此際先ツ三江口マテノ汽車開通ヲ行ヒ三江口ヨリ鄭家屯ニ至ル一工区ノ工事ヲ暫時停止シ其剩余セル工費ヲ以テ三江口ヨリ四平街ニ至ル一工区ノ用ニ供セハ自ラ充分ノ補救トナリ尚ホ其鐵軌枕木ヲ都テ他ノ鐵道ニ転売シテ流用スルコトヲ得ヘシ即チ營業ノ為メニ計レハ則チ三江口鄭家屯間ハ遼河ノ貫通スルアリ鄭家屯ヨリ東南一帯ニ運往スル貨物ハ三江口

延期シ得ル旨ヲ記載セリ現時金融ノ変動異常ナレハ鐵道側モ亦タ遲延シ得サルノ理由ナシ三江口マテ仮ニ汽車ヲ開通スルノ計画ニ依テ改テ全般ニ閑シテ確実ナル計算ヲ行ヒ上申シテ裁可ヲ俟ツヘン此段命令ス

民国六年十月十七日

交通總長 曹 汝 霖

（本野外務大臣ヨリ  
在中國林公使宛（電報））

五四三 十一月二日

吉会鐵道ハ後廻シトシ四鄭延長線等三鐵道ニ  
閑スル交渉開始方訓令ノ件

第八〇六号

貴電第一四七四号ニ閑シ

吉会鐵道ノ件ハ目下折角詮議中ナルモ其ノ決定ヲ見ル迄ニ

ハ尚多少手間取ル見込ニ付八月十六日附政機密送第一五七号四鄭鐵道延長線等三鐵道ノ件ハ此ノ上遷延ヲ重ヌルトキ

ハ時機ヲ失スル虞モアリ且吉会鐵道ノ件ハ右三鐵道交渉商議中適當ノ機会ニ於テ之ヲ申出ス途モアルヘシト思考セラ

ルルニ付此際兎モ角右三鐵道ニ付前記政機密送第一五七号ノ趣旨ニヨリ支那側ニ対シ交渉開始方可然取計ハレタシ

五四四 十一月二日 鈴木正金銀行總支配人ヨリ

## 四鄭鐵道ニ閔シ武内正金副總支配人ト葉交通

## 次長トノ会談内容報告ノ件

附屬書 十月二十七日付在北京武内正金副總支配人ヨリ

井上頭取宛書信写

大正六年十一月二日

(十一月三日接受)

横浜正金銀行

總支配人 鈴木嶋吉(印)

外務大臣子爵 本野 一郎殿

拝啓左記事項ニ関シ別紙写ノ通り在北京弊行武内副總支配人ヨリ報告有之候間茲許供御高覽候 敬具

四鄭鐵道問題ニ閔シ葉交通次長ト会見ノ件(十月二十日付第二六七号)

頭第6／二六七号

大正六年十月二十七日於北京支店

武内金平

本店

(附屬書)

写

小生ハ先ツ今次ノ部令ナルモノハ交通部ヨリ四鄭鐵道局ニ  
対シ發セラレタルモ勿論未タ何等實行ニ着手セラレタルモ  
ノニ非ルモノト心得ル旨ヲ告ケ更ニ右部令ノ内容ハ尤ナル  
所アルモ処々了解難致点モアレハ充分意見ノ交換ヲ遂ケ  
度、又場合ニ依テ次長ノ再考ヲモ促シ度シト冒頭シ備テ部  
令中ニハ昨今金融逼迫シ銀貨騰貴ノ際借款ヲ行フハ損失ナ  
ルノミナラス又其借入モ容易ナラストシ殆ント絶望セラレ  
タルカ如シ、元來四鄭線ノ資金調達ニ就テハ本行ハ主義ト  
シテハ是非共御相談ヲ受クヘキコトニ取極メ居レトモ只其  
具体的方法及其調達ヲ可成經濟的ニ行フコトニ就テハ相応  
ニ苦心致居ル所ナリ次ニ三江口鄭家屯間ノ工事中止ニ依テ

剩シ得ル所ハ僅ニ十数万元ニ過キサルノミナラス且又部令  
ニハ遼河ニ依ル貨物ハ三江口ニ集ルヲ以テ三江口鄭家屯間  
未開通ノ為メ生スヘキ鐵道ノ滅収ハ僅ニ全線完成ノ場合ノ  
四分ノ一二過キサル旨ヲ記サレタルカ如キモ卑見ニ依レハ  
鄭家屯ニ集散スル貨物ノ数量ヲ想像スルトキハ仮令明確ナ  
ルコトヲ知ラサルモ兎ニ角前述ノ四分ノ一ト云フカ如キ程  
度ニハ止マラサルモノト考ヘラル、次ニ目下銀価騰貴材料  
高値ナル際ナレハ暫ク此区間ニテモ工事ヲ中止セントノ御  
議論モアル様ナレトモ材料ハ已ニ全線四分ノ三ニ對スル分  
ハ勿論其余ノ分モ多少買入済ナルモノアル次第ナレハ此上  
ノ不足分ニ對シテ幾分高価ヲ支払フトスルモ全体トシテ觀  
レハ左迄ノ事ハ無カルヘク之ヲ全通セシムルト否トニ依リ  
テ鐵道収入ニ不尠徑庭アルコトヲ顧ミルトキハ左迄重視ス  
ルニ及ハサルヘク又遼河ノ橋梁ニ對シテハ已ニ九十万円ヲ  
費セルニ拘ハラス工事中止ノ為メ其幾分ヲ空シク抛棄セサ  
ルヘカラサルカ如キハ不得策ト謂ハサルヘカラス況シヤ以  
上ノ不利ヲ忍ヒテ中止ヲ断行セんモ猶已遂ノ事業ノ為メ如  
何ニスルモ百万円内外ノ金策ヲ必要トスルニ於テヲヤ最モ  
其意ヲ得難キハ既ニ買入レタル軌条、枕木ヲ他鐵道ニ転売

シテ資金補足ノ一部ニ充テントスルノ点ニシテ之ハ同鐵道  
借款契約中担保ニ閔スル規定ノ主旨ヲ没却セルモノニシテ  
本行ハ同公債所持人ノ為メ又将来他ノ鐵道公債取扱ニ對シ  
惡例ヲ貽スモノトシテ飽ク迄其ノ撤回ヲ請ハサルヘカラサ  
ル所ナリト反覆説明致候處同次長ニ於テモ前述ノ諸点ニ付  
キ多少ノ弁解ヲナシ又更ニ小生ニ於テモ反駁ヲ試ミタルカ  
結果同次長ハ當方申出ノ大体ヲ諒トシ元來右部令ナルモノ  
ハ借款ノ不可能ナルコトヲ前提トシテ發セラレタルモノナ  
レハ若シ借款ニシテ成立ノ見込アリトセハ其全部ヲ撤回ス  
ルモ亦不可ナカルヘク且右部令ナルモノモ同局ヨリ更ニ全  
般ニ亘ル計画見積書ヲ徵シタル上更ニ指令ヲ与フル筋合ノ  
モノニシテ直ニ実施ヲ命シタルモノニモアラス就テハ早速  
借款ニ閔スル協議ヲ進メ度且右部令ハ銀貨騰貴ニ依ル損害  
ヲ輕ウセントノ意思ニモ依ルコトナレハ是非銀貨借款ヲ行  
ハルル様尽力セラレ度ト結ヒ候

小生ハ之ヲ承ケテ貴説誠ニ然リ勿論借款カ絶對的ニ不可能  
ナル場合ハ次長ニ於テ夫々画策ノ必要モ可有之或ハ工事中  
止モ亦止ムヲ得サルヘケレトモ兎ニ角本行ニ於テハ已述ノ  
如ク資金ノ調達ニ閔シ焦慮シ居ルコトヲ了セラレ度又銀貨

七  
滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件  
五四五

五四〇

借款ノ御希望ニ就テハ本行ニ於テハ已ニ五六十万元ノ銀資  
金ヲ同鐵道ニ融通セル有様ナレハ場合ニ依リテハ今後ノ融  
通モ絶対的ニ不可能ト云フニハ非サレトモ果シテ御希望ニ  
別ニ得レマ否マハ、具本内ニ協議スルヲトナク且別ヘ、作合

ノ如ク銀相場カ復旧シ或ハ向後一層下落シ又将来高値ノ継  
続スルヤノ疑モアル際ニモ立到レハ銀借款トスルコトカ果

尚首居清銅理事事ニ小生ニ前後シラ葉次長ニ会見シ本件ハ成  
行知悉セラレ居リ且本夕当地出発帰任ノ上委細本社ニ報告  
可相成筈ニ有之候 敬具

A decorative vertical line consisting of a series of small, horizontal wavy dashes.

五四五 十一月八日  
本野外務大臣宛(電報)  
在中国林公使ヨリ

其葉集報言ノ牛

五四三号

次第ナレハ此鉄道カ良好ナル成果ヲ結フハ熱望スル所ニシテ且此成績ハ他ノ諸国干与ノ鉄道ノ分トモ比較セラレ日支両国ノ体面ニモ係ル事ナレハ十分意見ノ交換ヲモナン良好ナル結果ヲ得度キモノナリトノ意味ヲ繰返シ小生モ至極同感ナル旨ヲ告ケテ相別レ申候

本借款ニ就テハ其筋及満鉄ト御交渉ノ段取等モ可有之事ト承知致居候ヘ共次長ノ態度意見モ右ノ通りナレハ此ノ機ニ

議ノ余地アルヘキモ覚書記載ノ趣旨ハ結局再考セテレンコ  
トヲ希望スル次第ナルガ就中四鄭線ノ完成丈ハ是非急速実  
行セラレ度タ該線一部分ノ工事中止ハ何等利益ナク全線ノ  
完成ト否トハ鉄道ノ収入ニ鮮カラザル逕庭アルヘキ旨指摘

シタル上資金ハ不足ニ如シテハ速ニ統借款行方然ルヘク  
我方ニ於テモ右統借款ニ付テハ予テ考慮ヲ遂ケ置キタル次第  
ニ付速ニ統借款ノ商議ニ移ルコトトセラレタク將又今回三線  
ニ対スル借款ニ付テハ政府ノ議ヲ以テ從来ノ關係者タル正

五四五六  
十一月九日  
大正六年十一月九日  
右電報寫  
附屬書  
復電報報告ノ件  
滿蒙鐵道敷設ニ関スル正金本店北京支店ノ往  
鉢木正金銀行總支配人ヨリ  
本野外務大臣宛

横浜正金銀行  
総支配人 鈴木嶋吉(印)

外務大臣二  
野 一良  
拝啓滿蒙鉄道借款ノ件ニ關シ別紙写ノ通り当地北京間ニ電  
信往復仕候間茲許供貴覽候 敬具

写

北京來電 十一月七日發

満蒙鉄道借款ニ関シテハ今後南満洲鉄道株式会社ヲシテ交

七 満蒙鉄道借款細目交渉ニ関スル件 五四七

五四二

涉ノ衝ニ当ラシムル旨今日支那駐劄日本公使ヨリ交通總長ニ通告ノ筈就テハ拙者ヨリモ同様ノ手続ヲナスヘキヤ訓電相成度

北京來信 十一月九日發

第二信

七日付當方電信ニテ申述候件拙者ヨリ早速交通總長へ手続致可然支那駐劄日本公使ヨリ話有之至急指図有之度

北京向發電 十一月九日

第一信

滿蒙鐵道借款南滿洲鐵道株式會社ヲシテ其衝ニ当ラシムル事ニ當方ト南滿洲鐵道株式會社間ニ交渉済ニ付責殿ハ支那政府當局者ニ向ツテ其ノ意志ヲ發表シ支那政府ニ於テ承諾スル様勧告スルト同時ニ其目的ヲ達スル為メ尽力有之度尚四鄭鐵道敷設不足金ハ右交渉ト同時ニ解決スルコト大ニ希望致候ニ付南滿洲鐵道株式會社モ承諾致居候ヘ共交渉終了セサル前工事進捗不足額必要生スヘシト存候ニ付約二百万円迄ハ先方必要ノ時々左ノ条件ニテ貸出契約取締差支無之(一)期限一年但南滿洲鐵道株式會社支那政府間ニ借款交渉成立スレハ長期公債ニテ差支ナキモ其成立前故態ト短期トナ

シ置キ契約成立ト同時ニ長期公債ニ振替度考ナリ (二)担保四鄭鐵道 (三)利息年七分

五四七 十一月十三日

在中国林公使大臣宛(電報)

四鄭線二閥スル当事者ヲ満鉄トスルコト及統

借ノ銀立問題ニ關スル件

第一五八四号

(十一月十四日接受)

往電第一五四三号末段ニ關シ十二月武内曹ヲ訪問シ今回正金ニ於テ満鉄ニ引繼クコトナリタル旨ヲ声明シ次テ岩永モ亦曹ヲ訪問シテ債權者更改ニ関スル説明ヲナシタル所曹ハ能ク了解シタルニ付本使ニ對シ近ク回答ノ運ニ及フヘキ旨並ニ四鄭線ノ統借ハ要スルニ借款内容ノ問題ニテ若シ借款額ノ四分ノ一ハ金貨トシ四分ノ三ハ銀貨ニテ借リ受クルヲ得ハ直ニ商議ニ入ルヲ得ヘキ旨答ヘタル由右様ノ次第付近ク本使ノ接手スヘキ曹ノ回答ニ依リ債權者更改ニ関スル支那政府ノ承認ヲ得ルニ於テハ其ノ以後借款ノ当事者ハ満鉄トナル次ナルカ借款ヲ銀立トナスコトハ正金満鉄共ニ難色アルヘキモ四鄭線完工工事ノ等閑ニ附シ難キ事情ハ既ニ御承知ノ通リニ付支那政府承認前ニ於テ正金力借款當

事者タル場合ニ於テモ支那政府ノ理由アル提議ニ成ルヘク好意ヲ表セシムル様至急然ルヘク御斡旋ノ上結果御電訓相成リタク曹ハ四分ノ三分ヲ銀貨ニテ借受ケタントノ意向ナランモ結局二分ノ一ニテ折合ハンカト推察セラル

五四八 十一月十四日 在中国林公使ヨリ

滿蒙三鐵道敷設二閥スル中國政府宛覺書写送

付ノ件

附屬書 十一月七日付右覚書写

機密第三五七号

(十一月十九日接受)

大正六年十一月十四日

在支那

特命全權公使男爵 林 権 助(印)

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

帝国政府ニ於テ今回四鄭鐵道外二線ノ完成ヲ期セラルルコトニ決定セラレタルニ就テハ此機會ヲ以テ吉会線ヲモ急速

敷設セシメ以テ滿洲ニ於ケル既定鐵道網ノ完成ヲ計ルコト頗ル望マシキ儀ニ関シテハ屢次卑見及電票置候處貴電第八〇六号ヲ以テ右吉会線問題ハ未タ詮議決定ニ至ラサルニ付

以上三線ノ内四鄭開海二線ハ大正二年十月五日日支兩國間ニ協定セル借款修造鐵路予約辦法大綱ニ明記シアリ而モ四

七 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ閥スル件 五四八

五四三

鄭線ニ対シテ已ニ借款契約ノ締結ヲ了シ現ニ工事ニ着手シ居ルヲ以テ物価騰貴ニ基ク所要資金不足額ハ本邦ヨリ之ヲ続借シ速ニ完成ヲ期セラレタク開海線ニ対シテハ新ニ本邦ヨリ資金ノ供給ヲ受ケ敷設ニ着手セラレムコトヲ希望ス又鄭開線ニ關シテハ前記大綱中何等明記スル所ナキモ同線沿道ハ土地極メテ豊饒ニシテ各種ノ物資ニ富ミ支那移住民逐年激増シツツアリ啻ニ鉄道經營上十分利益アルヘキノミナラス同線開通ノ上ハ東部内蒙古地方ニ於ケル実業ノ発達及文化ノ普及ニ資シ日支両国均シク其利益ニ浴シ且同地方ニ対スル支那政府ノ施政上ニモ裨益スル所少ナカラサルヘキヲ以テ四鄭鉄道契約締結ノ際予見セル同鉄道ノ枝線又ハ延長線（第二十条参照）トシテ之又本邦ヨリ資金ノ供給ヲ受ケ速ニ敷設ノ運ニ至ラムコトヲ欲ス

將又前頭借款修造鉄路辦法大綱ニ記載セル本邦資本家ニハ横浜正金銀行ヲ指定スルコトニ決定シタル旨大正三年四月十日附ヲ以テ日本公使館ヨリ外交部ニ通牒シ四鄭鉄道借款契約ハ同銀行ニ於テ之ヲ締結シ且同契約附属文書ヲ以テ開原海竜其他ノ諸鉄道ニ対シテモ同銀行ニ於テ公債発行ヲ引受クヘキ了解アルモ帝国政府ハ前記諸線カ何レモ南滿洲

大正六年十一月七日

五四九 十一月二十日 中村正金銀行副總支配人ヨリ井本野外務大臣宛

満蒙鉄道ニ関スル武内副總支配人ヨリ頭取宛

ノ報告書写提出ノ件

附屬書

十一月十三日在北京武内正金副總支配人ヨリ井上頭取宛書信第二七三号写

満蒙鉄道借款交渉当事者変更方通知並四鄭鐵道工事不足額ニ関スル件

第一一八号 (十一月二十一日接受)

大正六年十一月二十日

横浜正金銀行

副總支配人 中村 錠太郎(印)

外務大臣子爵 本野 一郎殿

拝啓左記事項ニ關シ別紙写ノ通り在北京弊行武内副總支配

人ヨリ報告有之候間茲許供貴覽候 敬具

一、満蒙鉄道借款交渉当事者変更方通知並ニ四鄭鐵道工事費不足額ニ關スル件

(十一月十三日付第二七三号)

(附屬書) 写

頭第6／二七三号

大正六年十一月十三日 於北京支店

武内金平

本店

頭取 井上準之助殿

満蒙鉄道借款交渉当事者変更方通知並ニ四鄭

鉄道工事費不足額ニ關スル件

満蒙鉄道ニ關スル将来ノ借款ニ關シテハ満鉄ヲシテ其衝ニ

七 滿蒙鉄道借款細目交渉ニ關スル件 五四九

洲鉄道ト密接ナル関係ヲ有シ現ニ四鄭鐵道ノ如キハ同鉄道ヨリ車輶ノ貸与ヲ受クルコトトナリ居ルニ顧ミ鉄道經營ニ多大ノ経験ヲ有スル南滿洲鉄道会社ヲシテ前記諸鉄道借款当該政府ニ於テ同意アランコトヲ望ム尙南滿洲鉄道会社ニテハ前記諸鉄道ヲ米支鉄道契約ニ準シ建設費ノ節約ヲ図リ将来鉄道ノ負担ヲ輕カラシメム為請負制度ニ依リ引受ケムコトヲ希望シ居ルニ付之又主義上同意ヲ与ヘラレムコトヲ希望ス

然ルニ當方ニ於テハ未タ何等御訓令ニ接シ居ラス且四鄭鐵道工事費不足額ニ對スル借款申出ノ件モ有之旁及請訓候處去九日付貴電ニテ交通部ニ同様ノ通告ヲナシ且工事費不足額ニ対シ金武百萬円迄貸出方取計フヘキ旨御指図ニ接シタルヲ以テ昨日曹交通總長ニ面会貴電ノ主旨ヲ通シ候處同總長ハ追テ何分ノ回答ヲナスヘキ旨ヲ答ヘ且工事費不足額ノ借款ハ銀貨ニテ相談出来間敷ヤト質問有之候ニ付小生ハ右ハ目下本行銀貨資金欠乏ノ際且銀塊相場モ一時ヨリハ恢復シタルコトナレハ将来果シテ銀借款カ同鉄道ノ為利益ナリヤ否ヤモ問題ナルニヨリ是非金ニテ御相談ニ應シ度シ兔ニ角前述通知ノ問題ヲ早速解決シテ改メテ借款ノ御相談可致ト答ヘ退出シ更ニ陸夢熊ニ面会シ右成行ヲ物語リ且ツ次長ニモ説明ノ上充分ノ斡旋方依頼致候處同人ハ其意ヲ了シ同シク銀借款ヲ申出テ責メテ不足額ノ四分ノ三、其レモ出来サレハ半額（已ニ貸出シタル銀借款ヲ籠メ）ニテモ銀借

款トナス事出来間敷ヤノ質問ヲナシタルニ付小生ハ目下上海市場等ノ形勢到底之ヲ許ス間敷旨ヲ答へ且ツ總長ニ対セルト同様ノ応答ヲナシテ引別レ申候

就テハ滿鉄ト交替ノ件ハ迅速ニ解決スヘシトモ思ハレサレ

共主義ニ於テハ別段反対ノ意向モ見受ケサルニ因リ（鄭家

屯、開魯線布設ノ件ハ公使覺書ニ於テ始メテ見ル処ナルニ

因リ此点ハ或ハ問題トナルヘキカトモ被存候）万一案外早

ク決定ヲ見ルヤモ知レス若シ然ルトキハ不足額借款ハ依然

本行ニ於テ其ノ衝ニ当ルヘキモノナルヤ去九日付貴電中ニ

ハ此点明瞭ナラサル様被存候ニ付前件報告旁本日電信ヲ以

テ及請訓置候次ニ御座候其ノ内御指図ニ接スヘキコトト

期待致居候

尚昨日公使館ト打合ノ上別紙写（第二号）ノ通り交通總長

ニ覚書ヲ交付致置候

本便認メ候後陸夢熊來訪シ同人ハ總長及次長ト協議シタル

モ両者共是非銀貸借款希望ナルニ付不足額ノ四分ノ三（已

ニ貸出シタル銀貸金ヲ籠メ）迄銀借款トナス事ハ出来間敷

ヤト相談有之候小生ハ右ハ昨日モ会談ノ通り到底六ヶ敷且

又仮令相談出来得ルトセンモ利息ハ年利割以上タルヲ要ス

送第一五五号

大正六年十一月二十日

（十一月二十六日接受）

在鄭家屯

副領事 岩 村 成 允（印）

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

本件ニ關シテハ七月八日付送第一〇〇号ヲ以テ及報告置候

處最近ノ狀況別紙ノ通ニ有之候右及報告候 敬具

（附屬書）

註 別紙写第一号第二号省略

五五〇 十一月二十日 在鄭家屯岩村副領事ヨリ  
本野外務大臣宛

四鄭鐵道工事進捗狀況報告ノ件

附屬書 右報告書

ヘク是非金貨ニテ御相談致度ニ付尚總次長トモ重ネテ善ク  
善ク協議アリ度旨ヲ答へ同人ハ再会ヲ約シテ辞去致候

テ先方申出ニ妥協シ本問題ヲ早ク解決スルモ亦一策ナリ  
別紙相添ヘ此段及御報告候 ト存候

敬具

四鄭鐵道工事進捗狀況

四鄭鐵道線路中四平街三江口間ノ工事ハ殆ト予定ノ通り進捗シ十一月十三日三江口附近ニ於ケル遼河ノ仮橋竣工シ建築列車ヲ通過センメタルカ日下四平街ヨリ三江口ノ対岸ナル大民屯迄約四十二哩ハ一日三回建築列車ヲ往復セシメ内二回ハ一般ノ便乗ヲ許可シツツアルヲ以テ當地四平街間ノ交通ハ益便利トナレリ

次ニ三江口鄭家屯間ノ工事ハ本年夏期ニ豪雨降リ続キ八月初旬ニハ遼河氾濫シ三十年以来ノ大洪水トナリタル為メ飯塚組ノ受負ヒタル十二哩ノ土盛作業ニ多大ノ被害アリシニ依リ四鄭鐵路局ハ土盛ヲ预定ノ設計ヨリ更ニ五寸乃至三尺ヲ高メ請負者ヲ督励シ日ニ一千人内外ノ人夫ヲ使役シ工事ノ進捗ヲ計リシ為メ土工ハ略竣成シ軌道敷設工事ハ目下日々約四分ノ一哩宛進行シ建築列車ハ既ニ鄭家屯ノ南七哩ナル一棵樹附近迄達シタルヲ以テ遲クモ十二月初旬ニハ鄭家屯マテ開通スルニ至ルヘク又当地停車場ノ設備ハ同月中旬迄ニ略落成スル予定ナルヲ以テ其後ハ一般ノ便乗ヲモ許可スベシト云フ

答

五五一 十一月二十六日 本野外務大臣ヨリ  
在中国林公使宛

滿蒙三鐵道ニ關シ中國側回答アリタル場合ト  
否トヲ問ハズ請訓ノ上措置相成度件  
政機密送第一九八号

滿蒙三鐵道ニ關シ支那交通總長ニ申入レラレタル次第ハ貴電第一五四三号等ニテ御報告有之右ニ付テハ支那目下ノ政局ニ顧ミ急速其回答ヲ期スルコトハ恐ラク困難ナルヘシト思考セラルル處追テ支那側ヨリ我申出通全部異存ナキ旨回答アリタル場合ハ勿論問題無之モ万一大然ラサル場合ハ一応請訓ノ上何分ノ御措置相成様致度此段為念申進候也

五五二 十二月一日 在奉天赤塚總領事ヨリ  
本野外務大臣宛（電報）

四鄭鐵道建築列車鄭家屯到着ニ關スル件

岩村鄭家屯分館主任ヨリ第四五号

四鄭鐵道建築列車三十日鄭家屯ニ到着セリ四五日後ニハ一般旅客便乗ヲ許シ建築ニ差支ナキ限り貨物ノ輸送ヲモ為ス

七 満蒙鉄道借款細目交渉ニ関スル件 五五三 五四四

五四八

五五三 十二月七日 本野外務大臣宛(ヨリ) 在中国林公使宛(電報)

中国ノ時局ハ鄭開線敷設交渉開始ニ適スルヤ

問合ノ件

第九二五号

新内閣モ愈成立シ鄭家屯開魯線等ノ鉄道交渉ヲ開始シ可然ヤト考ヘラルヲ以テ近ク満鉄ヨリ川上理事ヲ貴地ニ派遣ノ筈ナル趣ノ処目下ノ政局ハ果シテ右ノ計画ヲ実行シ差支ナキ次第ナルヤ一応貴官ノ意見ヲ承知シタル上ニテ川上ヲ出発セシメタキニ付御見込ノ程回電アリタシ

五五四 十二月八日 在中国林公使宛(ヨリ) 本野外務大臣宛(電報)

中国トノ鉄道敷設交渉ハ時局柄其時機ニ非ザ

ル旨回電ノ件

第一六九五号

貴電第九二五号ニ閔シ交通部ヨリ今尚ホ我覺書ニ對シ何等回答シ來ラサル處昨今ノ時局柄容易ニ埒明カサルベシト認メラレ從テ具体的商議ニ入ルヘキ時機ニ閔シ何等見據附キ兼ヌルニ付追テ當方ヨリ何分ノ儀申進スル迄川上ノ出発ヲ見合セシムル様致度シ

## 事項八 鄭家屯ニ於テ日中両國軍隊衝突一件

五五五 一月一日 在奉天矢田總領事代理(ヨリ)  
本野外務大臣宛(電報)

四鄭街道ニ於ケル日本軍隊ノ數及配置狀況報  
告ノ件

第一号

客年往電第五二<sup>(註)</sup>号ニ閔シ四鄭街道ニ於ケル我軍隊ノ數竝配置狀態左ノ通  
鐵道守備隊ヨリ編成セル四平街附屬地ノ一箇中隊 支那四平街ノ一箇小隊 八面城ノ一中隊 三江口ノ一箇小隊ニ充タザル小部隊 鄭家屯ノ一箇中隊及第十七師團ヨリ編成セル一箇大隊(以上ノ内四平街附屬地ノ分竝鄭家屯ノ一箇中隊ハ鄭家屯問題發生前ヨリ駐屯ノモノナル由)  
在支公使ヘ電報セリ

註 日本外交文書大正五年第二冊八〇五文書

五五六 一月三日 在中國林公使ヨリ 本野外務大臣宛(電報)

鄭家屯問題解決方法ニ閔シ訓令ノ趣旨ニ依リ

八 鄭家屯ニ於テ日中両國軍隊衝突一件 五五五 五六六

近ク外交總長ニ覺書ヲ提出スベキ旨及本件ニ  
關スル所見眞申ノ件  
(一月四日接受)

第六号

閔スル所見眞申ノ件

貴電第五五八号ニ閔シ御訓令ニ依リ

第一未協定ノ三件ニ付テハ客月二十六日附機密第三八四号拙信別紙第二号甲乙丙三通ノロ上書(但シ甲乙ハ失書ノ通り修正シ丙ハ原案ノ通り)ヲ提出スルト同時ニ右ハ支那政府ノ意向如何ニ拘ラサルモノナル旨

第二協定済六項中ノ申飭、処罰、及陳謝ノ三件ニ付テハ布告及慰藉金ノ二件ト同様公文ヲ交換スルコトト為スヘキ旨第三支那政府ニ於テ右二項ニ對シ尚異議ヲ挿ミ其ガ實行ヲ阻止スルニ於ケル我增援軍隊撤退方ニ閔シ本使ニ於テ必要ノ措置ヲ執ル能ハサルヘキ旨竝三項ニ對シテ速ニ回答アリタキ旨ノ趣旨ノ覚書ヲ一兩日中ニ外交總長ニ會見ノ節交付シタル上貴電末段ノ御訓示ニ依リ統テ段總理ニモ會見スル所存ニ付右様御含置アリタシ尚貴電中一応協議済ノ事項ヲ取